第 46 回
東海スポーツ傷害研究会

日時：2024 年 1 月 27 日（土）14：00～

場所：名古屋市立大学病院　大ホール

〒467-8601　名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

●地下鉄桜通線「桜山」駅下車 3 番出口よりすぐ

（駐車場はご用意してございません）

・発表時間は 5 分

参加費　2,000 円

日整会専門医・認定医（スポーツ）及び研修医単位取得の場合は，別途 1,000 円を申し受けます.

当番幹事　野崎正浩

（名古屋市立大学　整形外科　准教授）

プログラム

総　　会（14：30～14：50）代表幹事：杉本勝正（名古屋スポーツクリニック　院長）

挨　　拶（14：55～15：00）当番幹事：野崎正浩（名古屋市立大学　整形外科　准教授）

一般演題一部　下肢（15：00～16：00）座長：野崎正浩（名古屋市立大学　整形外科　准教授）

1. 中学校子どもロコモティブシンドロームの現状

守矢高瀬（やまだ整形外科　リハビリクリニック）

2. 女子サッカー選手に生じたシュート時の鼠径部痛に対する病態解釈
－大腰筋の機能に着目した評価と運動療法－

石黒翔太郎（よこた整形外科 リハビリテーション科）

3. 外閉鎖筋損傷患者のＸ線骨盤傾斜角の特徴

田中健真（医療法人社団大須賀医院　おおすが整形外科）

4. 大腿直筋肉離れを繰り返したユース年代サッカー選手に対して競技復帰時期を検討した一症例　－大腿四頭筋遠心性収縮筋力に着目して－

田口　毅（やまが整形外科　リハビリテーション科）

5. 膝関節離断性骨軟骨炎の遊離骨軟骨片に対して骨片固定術を施行した野球選手の１例

末永聖悟（小牧市民病院　整形外科）

6. ACL 再建術後の筋力回復に影響を与える因子の検討

佐藤玲子（聖隷浜松病院　リハビリテーション部）

7. 足関節回外捻挫後に生じた足関節後方部痛に対し超音波画像診断装置による評価が有効であった１症例

岡田康平（平針かとう整形外科　リハビリテーション科）

休憩（16：00～16：05）

一般演題二部　上肢・体幹（16：05～16：55）座長：土屋篤志（名鉄病院　副院長 兼 リハビリテーション科部長 兼 救急部付部長 兼 関節鏡・スポーツ整形外科センター部長）

8. メディカルフィットネスを利用する中高齢者の神経・筋機能の個人差

高松　晃（吉田整形外科あいちスポーツクリニック）

9. 遺伝子検査キット IDENSIL を用いた腰椎分離症患者の遺伝子的検討

西森康浩（はなみずき整形外科スポーツクリニック）

10. メディカルフィットネスでの健康増進トレーニングは腰痛を改善させる

高松　晃（吉田整形外科あいちスポーツクリニック整形外科）

11. 内腹斜筋肉離れを受傷した高校テニス選手の１例

寺田圭吾（小早川整形リウマチクリニック　リハビリテーション科）

12. 手術加療を要した第一肋骨疲労骨折の一例

山内　翔（名古屋市立大学　運動器スポーツ先進医学）

13. 尺骨神経前方移行術後に肘内側の弾発現象を呈した Snapping Triceps Syndrome の一例

二村　涼（名古屋スポーツクリニック　リハビリテーション科）

休憩（16：55～17：00）

特別講演（17：00～18：00）座長：村上英樹（名古屋市立大学　整形外科　主任教授）

膝スポーツ損傷に対する超音波診療

中瀬順介（金沢大学附属病院　整形外科　助教）

講 演 内 容

1. 中学校子どもロコモティブシンドロームの現状

やまだ整形外科　リハビリクリニック　○守矢高瀬（理学療法士）

当院の前回研究で子供ロコモ比率は全体の４割であった．前回の評価はセルフチェックで行った為，今回は医療スタッフの介入によるロコモチェックにより，子どもロコモとケガの関係性を調査した．

2. 女子サッカー選手に生じたシュート時の鼠径部痛に対する病態解釈 －大腰筋の機能に着目した評価と運動療法－

よこた整形外科 リハビリテーション科　○石黒翔太郎（理学療法士）
平針かとう整形外科 リハビリテーション科　　岡西尚人
よこた整形外科　　横田　治

今回, シュート時に外閉鎖筋由来の鼠径部痛を呈した女子サッカー選手を経験した. プレー復帰には, シュート時のアライメントの是正に加え, 大腰筋の機能改善が必要であった. 本症例の病態解釈について報告する.

3. 外閉鎖筋損傷患者のＸ線骨盤傾斜角の特徴

医療法人社団大須賀医院　おおすが整形外科　○田中健真（理学療法士），
若林英希（理学療法士），大須賀友晃

外閉鎖筋損傷は鼠径部のスポーツ障害として近年注目を浴びている．しかし，その受傷機転や身体的特徴の報告は我々が渉猟する限り少ない．そこで今回，受傷した患者に認められた X 線骨盤傾斜角の特徴を報告する．

4. 大腿直筋肉離れを繰り返したユース年代サッカー選手に対して競技復帰時期を検討した一症例　－大腿四頭筋遠心性収縮筋力に着目して－

やまが整形外科　リハビリテーション科　○田口　毅（理学療法士）

キック動作を多用するサッカー選手において大腿直筋肉離れの発生は多く見られる．今回，大腿直筋肉離れを繰り返した症例に対し，大腿四頭筋遠心性収縮筋力を測定し競技復帰時期を検討したため報告する．

5. 膝関節離断性骨軟骨炎の遊離骨軟骨片に対して骨片固定術を施行した野球選手の１例

小牧市民病院　整形外科　〇末永聖悟，多和田兼章，戸野祐二，舩橋伸司，酒井　剛，大野木宏洋，田口敦丈，稲垣壽晃，下田将康，河村京佳，溝口雄大，山田邦雄

症例は 16 歳男性．誘引なくロッキングを生じ，当院受診．膝関節離断性骨軟骨炎の遊離骨軟骨片を認め，吸収ピンによる固定術を施行した．骨癒合を認め，野球への復帰が可能であった 1 例を経験したので報告する．

6. ACL 再建術後の筋力回復に影響を与える因子の検討

聖隷浜松病院　リハビリテーション部　〇佐藤玲子（理学療法士）

ACL 損傷後は大腿四頭筋の筋萎縮が進行し，筋力回復が不十分な症例も多い．本研究は，術後の膝伸展筋力に影響を与える因子を周術期の複数の時点において評価し，どの時期にどのような介入をするべきか検討した．

7. 足関節回外捻挫後に生じた足関節後方部痛に対し超音波画像診断装置による評価が有効であった１症例

平針かとう整形外科　リハビリテーション科　〇岡田康平（理学療法士），岡西尚人
平針かとう整形外科　整形外科　　加藤哲弘

足関節回外捻挫後に底屈時に足関節後方部痛を訴える症例を経験した．X 線より Stieda 結節を認めたが，エコーで長母趾屈筋（FHL）と深層の Fat pad の滑走性の低下を認めた．FHL の滑走性の改善によって底屈時痛が消失した．

8. メディカルフィットネスを利用する中高齢者の神経・筋機能の個人差

吉田整形外科あいちスポーツクリニック　○高松　晃
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻　廣野哲也
中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科　渡邊航平

中高齢者の個々が有する神経・筋機能の特性を中枢神経および末梢筋に分離し，運動能力との関連につき検討した. 結果、神経・筋機能は個々で異なり，トレーナビリティや運動能力に影響を及ぼした.

9. 遺伝子検査キット IDENSIL を用いた腰椎分離症患者の遺伝子的検討

はなみずき整形外科スポーツクリニック　○西森康浩

近年２００以上のスポーツ能力に関する遺伝子が発見され検討されているが，予防の観点での報告は少ない．今回我々は，市販の遺伝子検査キットを用いて，分離症発症患者の遺伝子を検討したので報告する.

10. メディカルフィットネスでの健康増進トレーニングは腰痛を改善させる

吉田整形外科あいちスポーツクリニック整形外科　○高松　晃
吉田整形外科あいちスポーツクリニックリハビリテーション科　谷口祐平
吉田整形外科病院リハビリテーション科　中宿伸哉

メディカルフィットネスでの 1 年間継続の健康増進トレーニングの腰痛改善・予防効果につき検討した．結果，腰痛は有意に改善し，その後も再発予防され，運動能力の向上と関連があった.

11. 内腹斜筋肉離れを受傷した高校テニス選手の１例

小早川整形リウマチクリニック　リハビリテーション科　○寺田圭吾（理学療法士）

内腹斜筋肉離れを発症した高校テニス選手（全国レベル）に対して，リハビリ介入することで競技レベルを維持しつつ，その後，再発することなく競技完全復帰を果たした症例を経験したので若干の考察を加え報告する.

12. 手術加療を要した第一肋骨疲労骨折の一例

名古屋市立大学　運動器スポーツ先進医学　○山内　翔，吉田雅人
名古屋市立大学大学院医学研究科　整形外科　武長徹也，野崎正浩，福島裕晃，
村上英樹
いなべ総合病院　菅沼峻一郎

１６歳男性, 硬式野球部投手, 右投げ右打ち. 右上肢尺側のしびれと握力低下を主訴に紹介となった. 第一肋骨疲労骨折に伴う胸郭出口症候群と診断し，内視鏡補助下第一肋骨切除術を施行し経過良好である.

13. 尺骨神経前方移行術後に肘内側の弾発現象を呈した Snapping Triceps Syndrome の一例

名古屋スポーツクリニック　リハビリテーション科　○二村　涼（理学療法士），福吉正樹，
中川宏樹，二村英憲，河田龍人，
小山由貴
名古屋スポーツクリニック　整形外科　杉本勝正
運動器機能解剖学研究所　林　典雄

尺骨神経前方移行術後に残存した肘内側の弾発現象に対して，上腕三頭筋内側頭と尺骨神経の関係に着目した運動療法が有効であった．Snapping Triceps Syndrome という病態を軸に超音波を用いて実施した評価，運動療法について報告する.

特別講演

膝スポーツ損傷に対する超音波診療

金沢大学附属病院　整形外科　助教
中瀬　順介　先生

膝スポーツ損傷に対して超音波診断装置を用いることで，新たな病態発見や治療法開発につながっている．本講演では膝前方部痛をきたす膝スポーツ損傷の症例を提示し，われわれが行っている超音波ガイド下インターベンション，手術について解説する．一方で，超音波診断にこだわりすぎて，診断が遅れた症例についても提示し，情報を共有したい．各種画像検査を使い分ける能力がこれからのスポーツドクターには求められる．

受講者には以下の単位が認められます．

●日本整形外科学会教育研修会認定単位：1 単位
・整形外科専門医資格継続
必須項目　02：外傷性疾患（スポーツ障害を含む）
必須項目　12：膝・足関節・足疾患
・スポーツ医資格継続

東海スポーツ傷害研究会